

令和 4 年度

「運営に関する計画」（最終）

大阪市立城東幼稚園

令和 5 年 3 月

大阪市立城東幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和4年度、現在の園児数は101名、学級数は5クラスである。園児数は昨年より4名減少した。本園の教育内容と、幼児教育の重要性について保護者や地域などへの啓発を図りたい。また、未就園児活動を含む子育て支援の充実を図る必要がある。
- いつ起こるかわからない災害や不審者等による事件発生時に対応するため、安全教育、避難訓練など、年間計画をたて取り組んでいる。さらに保護者や学校・地域との連携推進と、より様々な状況を想定した内容を工夫する必要がある。
- 園内での怪我や事故を減少させ、子どもが安全に園生活を送れるよう、実態を把握するとともに環境や指導法を見直し、安全、安心な幼稚園づくりのため、教職員や子ども、保護者と共に理解を図り、安全意識の向上に努めたい。
- 自他を大切にする気持ちをもつ子どもを育てたい。また、一人ひとりを大切にする教育の推進のため、教員の資質向上を図りたい。
- 家庭や地域で自然に触れる機会が少なくなっている。広い園庭を生かし、自然環境を豊かにし、見たり、触れたりする体験を通して、身近な自然への興味関心が深まるような環境構成の工夫と、就学前教育カリキュラムを活用し、幼児が主体的に遊び、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう教育的意図をもった働きかけを工夫し、保育内容の充実に努めたい。
- 幼児期から基本的生活習慣を身に付けることが大切であると考える。そのために、幼児の実態把握、指導法の工夫、家庭との連携を図り、継続した保健指導と啓発方法の工夫に努めたい。
- 社会情勢の変化により、近隣の学校・保育所や地域、各関係機関との連携が希薄になっている。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた対策を講じ、取組内容を見直し、できることを工夫しながら積み重ね、地域に開かれた幼稚園づくりをめざしたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」を90%以上にする。
- きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 一人一人を大切にした教育を行う。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり、触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 基本的生活習慣の意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教員の資質向上を図る。令和7年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。
- きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。
- 一人一人を大切にした教育を行う。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思うか（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。
- 身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり、触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。
- 基本的生活習慣の意識を高める。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教員の資質向上を図る。令和4年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。
- 地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

・本年度の幼稚園運営では、子どもの実態把握をもとに、教職員での話し合いの積み重ねや共通理解を大切にし、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、各目標に向けての取り組みを、綿密に進めていくことができた。

・安全・安心な教育の推進

避難訓練では、年間計画を軸に、様々な状況や災害を想定した訓練を実施する、近隣の小学校や地域の関係機関と連携して訓練を行うなど、子どもへの具体的な指導と、保護者、地域への啓発ができた。視覚教材の活用や安全だよりの発行などすることで、子どもや保護者の防災意識も高まってきた。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の回答率が100%となった。

きまりやルールを守るについては、期間を設定し、ケガマップによる怪我の実態把握を行い、集計した。グラフ化し、視覚的に分かりやすい子どもへの伝え方や保護者への啓発の仕方を考え、環境や指導法を工夫できた。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の回答率が100%となった。

一人一人を大切にした教育では、日々、子ども姿や支援について教職員で話し合い多面的に理解する、定期的に園内委員会や巡回相談を実施し、実態把握や共通理解をすることなどを積み重ね、個に応じた支援を継続した。また、様々な活動で異年齢と関わる機会をもつことで、いろいろな友達に親しみがもてた。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の回答率が100%となった。

・未来を切り拓く学力・体力の向上

就学前教育カリキュラムの活用では、子どもの姿から、知、徳、体がバランスよく総合的に育まれるよう、週案会議で環境や教師の働きかけについての話し合いを重ね、保育計画を立てたり、実践に生かしたりした。啓発については、プレゼンテーションや「えんちょうしつだより」などで、教育の発信や啓発を行った。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の回答率が98%となった。

身近な自然の充実では、年度当初に立てた栽培計画に沿って、園内の自然環境を整えたり、見直したりした。子どもが主体的に身近な自然に関わる、遊びに取り入れるなど、身近な自然への興味や関心が高まった。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の回答率が100%となった。

基本的生活習慣の意識では、生活調べを実施して実態把握をし、家庭と連携して生活習慣のアンケートやプレゼンテーション、ほけんだよりなどで啓発を行った。子どもの発達や実態から、保健指導の内容を工夫した。子どもや保護者の健康に関する意識が高まった。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の回答率が100%となった。

・学びを支える教育環境の充実

教員の資質向上では、対面、オンライン、オンデマンド等の研修に積極的に参加し、各自学びを深めたことを、朝礼や職員会議での報告、資料回覧など、全教職員で共通理解できるようにした。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえばそう思う）」の回答率が100%となった。

地域に開かれた幼稚園づくりでは、子どもの姿からの育ちや教育について、参観や保育室降園、親子ふれあいタイムなど、様々な機会ごとに啓発を重ねた。保護者ボランティアの協力を得、保護者の力を教育に生かすとともに、子どもの姿を通して、教育内容を知ってもらう機会がもてた。年間計画をもとに、小学校、保護者ボランティアなど、地域の資源や教育力を活用した活動を工夫した。地域への親しみをもつようになった。年度末の保護者アンケートでは「そう思う（どちらかといえどそう思う）」の回答率が100%となった。

大阪市立城東幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。</p> <p>○きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。</p> <p>○一人一人を大切にした教育を行う。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な非常災害時を想定した訓練を通して、自らの安全を守るための意識や態度を育む。 ・保護者、地域、小学校と連携し、災害や非常時においての対策の見直しや訓練の計画、実施を行う。 <p style="text-align: right;">(防災・減災教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な非常災害時を想定し、P D C A S サイクルを用いた避難訓練を年10回行う。 ・絵本や紙芝居、視覚教材などを用いた指導を学期に1回行う。 ・安全だよりを年3回以上発行し、保護者、地域、小学校に啓発する。 	A
<p>取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我が起きやすい活動内容や場所などの実態把握をする。 ・園内環境の見直しを行い、安全な遊び方についてのきまりやルールを教職員で共通理解し、実態に応じた指導法を工夫する。 ・取組内容を保護者に啓発する。 <p style="text-align: right;">(安全教育の推進)</p>	A

指標

- ・ケガマップをつくり、学期に1回まとめ実態把握をする。
- ・安全点検、環境整備を月1回行う。
- ・月2回の週案会議の際に遊び方のきまりやルールを再確認し、指導法を工夫する。
- ・掲示や配布物などで、年2回以上保護者に啓発する。

取組内容③【2、豊かな心の育成】

- ・園内委員会や週案会議を行い、幼児理解を深め、教職員で共通理解する。
- ・他のクラスの友達に親しみがもてるよう交流を行う。
- ・保護者や関係機関と連携し、一人一人に応じた指導法を工夫する。

(インクルーシブ教育の推進 人権を尊重する教育の推進)

A

指標

- ・園内委員会を学期に1回、週案会議を月2回実施する。
- ・他のクラスの友達との交流を月1回行う。
- ・個別の指導計画、視覚的な教材を作成し、学期に1回見直す。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について肯定的回答率は「そう思う」99%、「どちらかといえばそう思う」1%、合わせて100%だった。
- ・様々な非常災害時を想定した「避難訓練年間計画」を作成し、計11回行った。訓練後に、教職員間で反省会を行い、反省をもとに災害時持ち出しリュックと救急バッグの中身を精選した。また、誰が見ても分かりやすい避難先を示した貼り紙を作成した。大阪880万人訓練での保護者アンケートの疑問点や教職員の反省点をまとめ、安全だよりで啓発した。P D C A S サイクルを用いて、安全に避難するための方法をより良く改善し、教職員で共有している。
- ・6月に城東消防署との火災訓練、11月に城東警察署との不審者対応の訓練、12月に大阪府警の防犯教室など、地域の関係機関と連携し、災害や非常時においての訓練を計画・実施した。事後には、関係機関からの指導を受け、改善した。子どもたちは、消防車を見せてもらったり、警察の方から話をしてもらったりしたこと、防災意識が高まった。
- ・9月の大坂880万人訓練では、近隣の小学校に避難をし、保護者引き渡し訓練を実施した。
- ・教員が地域の防災訓練や避難所開設訓練に参加した。災害時の地域の役割を知る機会になった。
- ・絵本や紙芝居、視覚教材などを活用し、安全指導を計11回行った。前期は、子ども達が「お・は・し・も」の約束や防災頭巾の被り方などを理解し、子ども自身が災害に応じた行動をとろうと意識することにつながった。後期には、事前に予告せずに訓練を行ったことで、教師の話を聞いて機敏に行動したり、今までの訓練を振り返り、自分で考えて行動したりするようになってきた。
- ・171災害伝言ダイヤルのテストでは、降園時に保護者と一緒に手順を確認し、一斉に試聴テストを行った。やってみることで、伝言ダイヤルの使い方が分かり、保護者の意識づけになった。
- ・安全だよりを学期に1回ずつ計3回発行した。保護者、地域、小学校に配布して園の取組を啓発した。後期には、親子で一緒に考えられるようなクイズを取り入れたことで、子どもから保護者に防災についての話をする機会となり、保護者の防災意識の向上にも

つながった。

取組内容②

- ・令和4年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、肯定的回答は「そう思う」93%、「どちらかといえばそう思う」7%、合わせて100%だった。
- ・『ケガマップ』を作成し、『ケガマップ』を用いた怪我の実態把握を年5回行った。時期や学年によって、怪我の内容が違うことが分かった。
- ・月1回安全点検を行い、危険な所があれば、環境整備をした。クラスの実態に応じて、机の角やコップ掛けにカバーなどを着ける安全対策をその都度行った。
- ・3学期には、5歳児がクラスごとに子ども用の安全点検表の項目に沿って危険箇所がないか点検した。その後、気付いたことをクラスで話し合い、貼り紙をつくり掲示したり、3、4歳児に知らせに行ったりした。子どもたちの怪我予防についての意識を高めることができた。また、PTAによる安全点検も実施し、いろいろな視点で園内の安全を見直すことができた。
- ・週案会議で、『ケガマップ』で分かったことを共通理解し、遊び方のきまりやルールを教職員間で再確認した。週案会議で話し合ったことや、『ケガマップ』で分かったことをもとに、安全指導を年5回行った。ポスターや○×クイズなど、指導方法を工夫することで、子どもが怪我予防に興味関心をもつことができた。
- ・学期に一度、計3回、学期中に起きた怪我の内容と場所を集計しグラフ化したものや、『ケガマップ』の取り組みについての安全だよりを保護者に配布した。終業式等にパワーポイントで怪我予防について話す機会を設けた。視覚的に分かりやすい啓発方法を工夫することで、保護者啓発につながった。

取組内容③

- ・令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について肯定的回答率は「そう思う」95%「どちらかといえばそう思う」5%合わせて100%だった。
- ・幼児理解を深めるため週案会議を月2回、園内委員会を年3回、巡回相談を年2回実施した。教員が一人一人の実態を把握し、多面的に理解し、共通理解をして個に応じた支援を行った。
- ・他のクラスの友達や異年齢の友達と交流をし、関わって遊ぶことで身近に感じ、親しみをもつことができるよう、下記のような取り組みを月1回以上行った。
1学期は好きな遊びの時に体操や色水遊び、砂遊びなど、色々な遊びを異年齢で楽しめるような環境構成と時間を大切にし、その中で5歳児の姿が刺激になり3歳児4歳児は新しい遊びに興味をもち、やってみたり、遊びを教えてもらったりなどし、異年齢の友達に親しみをもって関わるようになった。
園外保育では事前に、5歳児は3歳児とペアを決めて手をつないで歩く機会をつくり、その中で5歳児は年下の友達に親しみや思いやりの気持ちをもち進んで関わる姿が見られた。3歳児は安心して園外保育に行くことできた。
12月の音楽発表会、2月の生活発表会では他のクラスの発表を見ることで、3歳児、4歳児は5歳児の姿に憧れの気持ちをもった。5歳児は年下の友達の思いを優しく聞き、受け入れる姿が見られた。互恵性のある活動になった。
- ・保護者に子どもの様子を降園時、保育室降園、個人懇談会などで丁寧に伝えることで、保護者との信頼関係が深まるように努めた。信頼関係を深めることで互いに様子を伝え

合い、実態に応じた支援方法を相談し、個に応じた支援につながった。

- ・関係機関と情報共有し、個に応じた支援に生かした。5歳児は就学に向けて小学校と連携し、小学校教諭に直接子どもの様子を見てもらい引継ぎを丁寧に行った。
- ・個別の指導計画を学期に1回見直し、実態に応じた支援の手立てを考えた。
- ・子どもたちが見て分かりやすい視覚的な教材を作成し、学期に1回実態に応じて改善したことで、子どもたちにより分かりやすい教材になった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・地域や関係機関と連携をとりながら訓練を計画・実施する。
- ・保護者や地域、小学校に訓練の様子や園の取組を周知できるよう、あんぜんだよりの内容を工夫する。
- ・保護者の防災意識を向上させるため、子どもと共に防災について考えられる方法を工夫する。

取組内容②

- ・『ケガマップ』の取り組みを引き続き実施し、定期的に実態把握を行い、指導方法を工夫する。
- ・5歳児やP T Aによる安全点検を計画的に実施する。
- ・教職員間で遊具の使い方や安全な生活のためのきまりを共通理解し、繰り返し子どもたちに知らせる。
- ・今後も安全だよりを作成し、保護者啓発を行う。

取組内容③

- ・引き続き園内委員会、週案会議を行い教職員間で共通理解し、一人一人に応じた支援の手立てを考える。
- ・異年齢の友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じ、親しみの気持ちをもてるような教育的意図をもった働きかけを工夫する。

大阪市立城東幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>①就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答割合を75%以上にする。</p> <p>②身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。</p> <p>③基本的生活習慣の意識を高める。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【3、幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用し、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫し、保育の充実に努める。（就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案会議を月2回行い、子どもの実態把握を深め、教育的意図をもった働きかけについて討議する。 ・就学前教育カリキュラムを活用し、指導計画を毎月見直し、教育課程を改訂する。 ・プレゼンテーション、紙面配布、掲示物などを活用し、年3回以上保護者に啓発する。 <p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>身近な自然への興味や関心を高め、主体的に遊べる環境を工夫する。（「主体的・対話的で深い学び」の推進）</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培の年間計画を立てる。 ・見たり、触れたりすることができる自然環境を、学期に2回再構成する。 ・身近な自然を取り入れて遊べる環境を、月1回見直す。 	A

取組内容③【5、健やかな体の育成】

- ・基本的生活習慣が身につくよう、子どもの実態に応じた指導法を工夫する。
(健康に関する現状課題への対応)

指標

A

- ・生活調べ（早寝早起き・朝ごはん・排便・歯磨き）を年3回実施する。
- ・生活習慣に関するアンケートを年2回行い、結果を報告する。
- ・子どもの実態に応じた保健指導を月1回行い、保護者啓発を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」96%「どちらかといえばそう思う」2%、合わせて98%だった。
- ・月に2回、全担任が集まり週案会議を行い、下記について討議し、保育の充実に努めた。
 - ・子どもが主体的に活動する中で、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教師が各クラスの子どもの実態や興味関心を把握し、保育環境を整えたり、用具や素材の精選をしたりしたことで、友達と考える、試す、工夫するなどの楽しさを味わうようになった。また教師は、クラスだけでなく園全体としての具体的な環境を考える機会となつた。
 - ・振り返りの時間を大切にし、子どもが感じたことや経験したことなどを伝える機会をもつようにしたことで、友達の遊びを知って刺激を受けたり、クラスと一緒に考えたりすることができるようになってきた。また、友達と話し合う中で、友達の思いを聞こうとする態度が育まれた。
- ・「友達とのかかわりの中で、思いや考えを出し合い、協同性を育む」という研究テーマで各担任が年6回、実践記録をとったり、分析を行ったりした。子どもの姿や言葉から、子どもの思いや考えを読み取り、全教職員で検討会をすることで、より子どもを多面的に捉えることができた。
- ・就学前教育カリキュラムを活用し、幼児の実態に応じて日案・週案を作成した。指導計画を見直し、段階的に教育課程の改定を進めたことで、教師が短期的・長期的な見通しをもって保育を考えることにつながった。
- ・園での子どもの様子や子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれている姿について、8月、12月の計2回プレゼンテーションを行った。3月にも1回行う予定である。また、就学前教育カリキュラムの内容や教師の教育的意図もった働きかけについて、えんちゅうしつだよりで4回、保護者啓発を行うことができた。

取組内容②

- ・令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」98%「どちらかといえばそう思う」2%、合わせて100%だった。
- ・年度当初に立てた「栽培計画」に沿って、園内の自然環境を整えたり、見直したりしながら栽培活動を行った。
- ・見たり、触れたりすることができる自然環境を、学期に2回再構成することができた。1学期は、野菜や草花などを子どもたちと一緒に深いプランターに植え替え、アーチを

つくった。子どもの手の届く高さ、中に入りたくなるように配慮した。

裏庭の環境を再度見直し、果物の収穫や虫探しができる安全な環境になるように、再構成した。(4月～9月の詳しい内容は、中間報告に掲載)

10月、全園児がイネ刈りやイネの掛け干しができるように、イネが植えられたコンテナを遊びの導線を考え、よく見える場所に移動して行った。また、イネの掛け干しを自分なりに考えたり、工夫したりしてできるように、紐やスズランテープなどのいろいろな素材を準備して行った。5歳児が3歳児に優しく知らせたり手伝ったりする姿が見られた。

11月、4,5歳児は、サツマイモ掘りを伸び伸びと広い場所でできるように、子どもと共にサツマイモのプランターを園庭の広い場所に移動した。(3歳児は、園内の畑で行った) 自分たちで育てたサツマイモを収穫する喜びを味わったり、ツルを使って遊ぶこと(綱引きや縄跳びなど)を楽しんだりすることができた。

12月、全園児が各クラスでイネの収取り・脱穀・精米できるように、子どもと話し合い、いろいろな素材を子どもと共に準備した。素材の中から自分で選んだり、考えたり、試したりして楽しんできた。

1月、水が凍った様子に気付いたり、見たり、触れたりできるように、子どもが登園する導線に配慮した場所に水を入れたタライを置いた。登園後、気付いた子どもが、水が氷に変化した不思議さや面白さを感じたり、友達や教師に嬉しそうに知らせたりする姿が見られた。

2月、チューリップの生長を見たり、気付いたりできるように、プランターを子どもの遊びの導線を考え、よく見える場所に移動した。

- ・身近な自然を取り入れて遊べる環境を月1回を見直すことができた。

子どもが主体的に身近な自然に興味や関心をもって関わったり、遊びに取り入れたりする姿が見られるようになった。5歳児が3,4歳児に気付いたことや発見したことなどを知らせたり、3,4歳児が5歳児から聞いたことに興味や関心をもつたりして、主体的に身近な自然に関わるきっかけとなり、自然物を遊びに取り入れて自己発揮して遊ぶことができた。

取組内容③

- ・令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」94%「どちらかといえばそう思う」6%、合わせて100%だった。
- ・規則正しい生活を意識できるよう、生活調べを3回実施し、正しい生活習慣の大切さを発信することができた。
- ・食への興味・関心が高まるよう、『やさいかーど』を長期休業に2回行った。保護者からの「苦手な野菜も一口食べる努力をしていた」「イラストの野菜全部食べたいと頑張っていた」といったコメントが書かれており、子どもの意識が高まってきた。また、保護者から集めたレシピをテラスに掲示し、それをまとめた『じょうとうレシピ集』を2回配布した。
- ・生活習慣のアンケートを2回実施した。1学期と3学期の結果を比較し、保健だよりやプレゼンテーションを通して保護者啓発を行うことで、保護者にも早寝・早起き・朝ごはんの大切さを発信することができた。
- ・子どもたちの実態を踏まえ保健指導を月1回行った。内容は、手洗い・うがい、トイレ、朝ごはん、熱中症、早寝について、歯について、よく噛んで食べることについて、けがの手当てと予防について、3色の栄養素、お箸の使い方、姿勢についてを行った。指導後、子どもたちから「朝ごはんを食べてきた」「早く寝たよ」「朝も歯磨き頑張った」と

いう声が聞かれるようになり、規則正しい生活習慣を意識する子どもが増えた。また、弁当時には、「30回よく噉んで食べたよ」「今日は野菜入ってた」という声やお箸を正しく持とうと意識する姿が見られるようになった。

指導内容を保健室前や保育室に掲示することで、食への興味をもつきっかけになったり、意識して正しい手洗い、うがいをしたりする姿が見られるようになった。保護者には、ホームページや保健だよりを活用し、啓発を行った。

保護者からも「保健指導の内容を話してくれる」という声が聞かれ、子どもたちの姿から保護者の健康に関する意識が高まってきた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・週案会議では教員一人一人が積極的に発言する。
- ・子どもが主体的に活動できるよう、子どもの実態把握や教師の教育的意図をもった働きかけなどについて討議を重ね、教職員間で共通理解を図る。
- ・指導計画は、就学前教育カリキュラムを活用して期限を決め、計画的に見直しを行い、教育課程の改定を進める。

取組内容②

- ・園庭の草花を大切する気持ちをもてるように、指導方法を工夫する。
- ・引き続き、子どもの実態や季節に応じて、子どもが身近な自然を取り入れて遊べる環境を教職員間で話し合い再構成をする。

取組内容③

- ・長期休業後や連休明けなど、生活習慣が崩れることが想定されるため、事前に健康な生活習慣を意識できるような指導法の工夫と、生活調べを実施する。
- ・家庭でも正しい生活習慣を意識できるよう、生活習慣アンケートの結果を報告する方法を工夫する。
- ・保護者に保健指導の内容をより知ってもらえるよう、引き続き、保健だよりやホームページに掲載する。
- ・子どもたちが保健指導の内容を意識し、継続して取り組むことができるよう、実態に応じた助言を工夫し、保健室前の掲示板を有効活用する。

大阪市立城東幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>①教員の資質向上を図る。令和4年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して、自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。</p> <p>②地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を75%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージに応じた研修に積極的に参加する。 ・保育指導案を作成し、園内研究会を実施する。討議会をもち保育を改善し、教員の資質向上に努める。 <p>(教員の資質向上・人材の確保)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員一人につき年に3回以上、研修に参加して伝達する。 ・園内研究会を年6回行う。討議会をもち、保育内容の改善を図る。 	B
<p>取組内容②【9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室降園、保育参観、行事などを通して、子どもの姿を保護者と共有し、幼稚園教育への理解を図る。 ・近隣の小学校や公園、様々な人材など、地域の資源や教育力を園の教育に取り入れる。 <p>(教育コミュニティづくりの推進)</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子ふれあいタイム、保育室降園、行事などの機会に、幼稚園の教育内容を学期に1回、保護者に発信する。 ・保護者ボランティアを募り、保護者の力を教育に生かす。 ・学期に1回以上、近隣の小学校や公園、様々な人材など、地域の資源や教育力を活用した活動を工夫する。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して、自分の資質向上を図ることができた」の項目についての肯定的回率は「そう思う」100%だった。 ・対面・オンライン等の研修に教職員1人につき、年に3回以上、参加することができた。 ・参加した研修内容を朝礼や職員会議などの機会に具体的に職員に伝達した。話す内容を整理したり、伝え方を工夫したりすることも学びの機会になった。 ・新任教員研修や2ブロック研究部会など研究保育を通して、他園の保育を見る機会があ

った。教師と子どもの関わり方や援助の方法を学ぶことができた。また、グループ討議で他園の教員と交流し、多面的に子どもの姿を読み取ることも学んだ。

- ・保育指導案を作成し園内研究会を前期2回、後期5回実施した。討議会では、幼児の実態に応じた教師の教育的意図をもった働きかけについての意見交換を行った。保育内容の改善を繰り返すことで、資質向上につながった。しかし、計画的に実行できず、開催時期が2月に偏った。

取組内容②

- ・令和4年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目についての肯定的回答率は「そう思う」96%「どちらかといえばそう思う」4%、合わせて100%だった。
- ・今年度は、運動会、作品展、音楽発表会、生活発表会などを全て開催することができ、行事を窓口とした子どもの育ちを保護者の方に伝えることができた。4月、5月には保育参観、6月に弁当参観、7月にプール参観、12月にもちつき参観、1月にはマラソン自由参観を行った。子どもが園で過ごす様子を知ってもらい、子どもの姿を通して、活動内容や園の取組を発信する機会になった。
- ・5月、6月、9月、10月、11月、1月、2月に、保育室降園を行った。教育内容の話や親子で一緒に体操や手遊びなどをすることで、より具体的な園の教育内容やクラスでの取り組み、学級の雰囲気などを啓発する機会になった。
- ・7月と12月には、就学前教育カリキュラムや運営の計画に沿った教育の内容をプレゼンテーションした。子どもが活動している写真から、学びにつながる姿を具体的に伝える機会になった。
- ・城東小学校の協力を得て、年齢ごとに時期を見て散歩に出かけ、学習園の探検や授業参観、親子での凧あげ、給食参観などを行った。小学校の雰囲気を知ったり、憧れや親しみをもつたりするようになった。
- ・園外保育や、ふれあい動物村、焼き芋パーティ、もちつきなどで保護者ボランティアを募り、協力を得た。事前に計画やお手伝い内容を紙面に掲載し、活動内容や教育的意図を分かりやすく伝えることができた。一緒に参加してもらい、子どもの姿を通して教育内容を知ってもらう機会になった。
- ・幼稚園で飾った七夕の笹飾りや、収穫したニンジン、ジャガイモ、タマネギなどを、地域の小学校や交番、福祉社会館に子どもと一緒に届けた。お礼を言われたり、優しく対応してもらったりし、嬉しさを感じていた。また、5歳児は、修了前に、地域の方から手作りのペン立てをプレゼントしてもらった。地域の方への親しみや感謝の気持ちをもつことができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・研修に積極的に参加する。そこで学んだことを具体的に伝達し、学びを共有する。
- ・計画的に園内研究会を実施する。

取組内容②

- ・年間計画を立て、参観や交流など家庭や地域との連携を大切にし、地域に開かれた幼稚園として、教育内容を発信する。
- ・引き続き、近隣の小学校や公園の活用を図り、保護者、地域の資源や教育力を幼稚園教育に生かすことができるような活動の工夫を続ける。

